大正九年十二月十四日 第三種郵便物認可

新京日日新聞

夕刊 十一月六日(月)

支那市場の不況の原因は排日

英國が排日政策廢棄を慫慂せん

〔上海五日發國通〕北支方面に於ける對日空氣の緩和による事態の「改善」に鑑み當地一般商民間の空氣にも著しき緩和の跡を見るが殊に當地英國筋の有力者間には支那市場未曾有の不景氣恢復策は今のところ對日關係の常道化以外になしとしてゐる、支那側が今日までヲイヒヤルを通じて行つて來た聯盟依賴主義は結果に於て完全に失敗であつたと共に英國は支那政府に對して執拗にして自國に有害無益なる排日政策を改め過去を捨てゝ現實に即して國內の急速なる建設に努力し市場の恢復に努むるやう慫慂すべしとの議論擡頭、宋子文の辭職前後より此の機運特に濃厚となりつゝあるは注目に値する、平和克服市場恢復の曉には不振なりし對支貿易の損失を一擧に恢復せんとする利に敏き英商一流の戰術に出でたるものにせよ刻下時局に對する「最良」の打開策として各方面に大なる波紋を擲げつゝある

政府の方針に順應して進みたい

古田司法部總務司長今夜來京

〔大連五日發國通〕司法部阿比留乾二氏の後を襲つて總務司長に就任した前大審院檢事古田正武氏は秘書官同伴、五日朝入港のうすりい丸で着滿したが、船中左の如く語つた

滿洲は始めてである、阿比留前司長とも未だ會つたことはないし、滿洲の空氣に馴れてゐないので新しい方策等樹てられない、司法部の仕事はそんなに時々變るべき性質のものでない、新京で阿比留氏に會つてよく事情を聽き政府の方針に順應して行き度いと思ふ、云ふ迄もなく司法の精神は[illegible]、正義の支持、治安の維持にある、治外法權の撤廢は滿洲國から日本に働きかく可く準備中であると聞く、自分も直接その衝に當る事とならう、元來滿洲の司法制度は支那のそれに比して遙かに完備したものである事は昔から云はれて居るので此問題も困難なく解決するものと信ずる、領事裁判權の撤廢に伴ふ日本人辯護士の滿洲國法廷への出廷問題は左樣な事で許し得るか如何か未定の問題だ、然しこの事は中央部では問題にはなつてゐる、云々

同氏は大連に一泊後六日午前九時大連發のハトで一路新京に向ふ筈である

米國金買上値段 卅二弗六十七仙と發表

〔ニユーヨーク四日發國通〕金融復興會社は四日の金買上値段を卅二弗六十七仙と發表した、昨日より十仙の高値である

陸軍の幹部候補生 選拔法決定

すべて入營後の成績本位

〔東京五日發國通〕本年最初の納金制廢止の幹部候補生選拔法に就き陸軍では新制度により入營する幹部候補生有資格者數一萬三千名中將校候補者と高等下士候補と合せて六千名選拔し入營三ケ月後試驗を行ひ之に入營前の情況を參酌し決定するが非常に嚴正で採用決定後も一等兵として三ケ月を經過し其の上で甲乙に分け甲乙決定後も成績次第で甲から乙に、乙から甲になるもので成績次第によつて陸軍幹部候補生の資格を失する場合も少くない、尚ほ本年から衛生部中學理士や工學士の技術家は採用決定の二個月後造兵廠に轉屬せしめ、新兵器の研究を爲さしめることとなつた

滿洲國に醫業國營の聲

〔大連五日發國通〕滿洲國醫師法制定を控へて最近大連醫師會の一部に與來ある滿洲國の醫業國營が提唱されて注目を惹いてゐる、即ち滿洲國內に於て個人醫師の營利的開業を許可するに於ては醫師は利潤多い都會に集中され全國的に行渡らず地方患者の不便は甚だしきものあり、此の弊害を除去するため醫業を國營とし保險制度を採用、國民より一定少額の保險金を徵收して疾病患者に對しては普く施療的に治療を行ひ、醫師を全國に行渡らせるため小醫制度又は日本に於ける縣立病院制度を採用すべきであるといふのである

上原元帥小康

〔東京五日發國通〕四日午後危篤を傳へられた上原元帥は同夜カンフル注射後幾分元氣恢復したので五日朝再度中村軍醫監が葡萄糖注射をなした結果その後小康を保つて居る

黑龍江沿岸に於ける砂金鑛の近況(七)

黑龍江省〇〇班調査

此處に於て先づ現地黑河に於ける金廠を調査せしに、民國二十一年一月以降同年十月迄の鑛稅十ケ月分は既に愛琿金鑛監察局へ完納し、其の鑛稅受領證を提示せり(但し此間の愛琿金鑛監察局は馬占山僞政下にあり)其の以後に於ける鑛稅未納の事情は、馬占山僞政府解消後、愛琿金鑛監察局も亦閉鎖して一切の事務を停止したる爲め鑛稅納入機關缺如し金廠に於て納入すべき鑛稅を保管しありと陳述せり、(八道源金廠の如きは現に之を提示し、余等も亦目擊せり)

抑々愛琿金鑛監察局よりの呈報停止以後、即ち民國二十年十二月以降至二十一年十月迄の鑛稅は、馬占山僞政府下に在りし愛琿金鑛監察局が徵收之を壟斷せるものと認む、其後は鑛稅納入機關たる愛琿金鑛監察局事務停止に依て、各金廠が其の鑛稅を自から保管し居りしものならん

最後に金廠の提示せる鑛稅受領證と金鑛監察局原簿との照合を企圖せるも現在黑河市政籌備處に保管せられたる該原簿類中に恐らく紛失若くは僞造せるもの等在りて判然せざるに逢に餘日なく歸還の已むなきに至れり

鑛稅徵收方法

鑛稅徵收方法は從來金鑛監察局より各採金現場へ派員して產金額の檢査及び之に對する鑛稅の稅額を金鑛監察局へ報告せり

然れども監察局派員と鑛商との妥協不正事項の有無は詳ならず

黑龍江沿岸の砂金鑛開發

黑龍江沿岸の漠河縣、鷗浦縣、呼瑪縣、遜江縣、愛琿縣更に南下して羅北縣、湯原縣等各地に於ける砂金鑛は從來屢々採掘せられしことあれども其の規模甚だ原始的にして之が開發遲々として進まざる現狀である

之が直接原因を考察するに次の如きものが數へられる

一、舊政權の職權濫用

二、治安維持の不備

三、交通の至難

四、科學的資源調査の缺如

五、原始的土法による採金能率の低下

滿洲國王道治下に於ては、職權濫用の如き弊風毫も許されず、且つ治安確保も亦着々と其の實績を擧げてゐる、又交通施設に於ては國防上、產業開發上より夫々考慮せられ、既に[illegible]測量隊がチチハル黑河間の鐵路線測量に從事してゐるのである

之に伴ひ資源開發の基調となる科學的資源調査を先づ遂行し、鑛業金融機關を設置して遂に資金の潤澤を期し、從來の原始的土法に代へて現地に即したる近代的採金施設に依り砂金產額及び之が統制を圖ることの重要を切言するものである

最後に國境黑龍江沿岸に於ける砂金鑛開發の對策は、本省鑛業施政中、最重要の一つにして、今回黑河を中心とせる各金鑛業者の實情に徵し、現存砂金埋藏量は今尚豐富にして將來之が開發は現地の科學的鑛產資源調査に依て大いに期待し得るものと確信せしめられたのである(了)

日滿戀曲 生命線を行く (九)

國友雄吉 作 (荒川芳三郎 畫)

一見舊知の感

滿洲里の市街が見えなくなつてしまふまで、伸一は車窓に立つて飽かず眺めながら、要子への憧憬の心を、わづかに慰めた。

そして席へ戻つてみて、さつきの青年士官が、自分のすぐ前に乘つてゐることに、初めて氣がついた。

二人は互に目禮した。

「さつきは、どうも有難う」

「いえ、どうしまして」

二人の間に、親しみの微笑が開けた。

「君は、どちらへ——?」

「僕、東京へ歸ります」

「君は、東京ですか」

「えゝ、さうです。——父が東京ですから——」

「それは、いけませんね。——君は、大層支那語が巧いですね」

「いえ、さうでもありません」

伸一は、苦笑した。

「滿洲へ來てから、もう何年になりますか」

「漸く、足かけ六年目です」

「そして、滿洲里に、お住居ですか」

「えゝ、さうです——あなたは?」といつて訊かれると、青年士官はちよつと躊躇した後、

「僕たちの部隊は、目下昂々溪に駐屯して待機中です。僕は宮本先遣部隊の千原龍夫といふ歩兵中尉です。どうぞよろしく」

「いゝえ、僕こそ——」

そんな調子で二人は、一見あたかも、舊知の如き感じを覺えた。

そして中尉の話によると、さつきの滿洲里驛での騷ぎは、密輸者の露人が出札口で切符を買はうとすると、そこに張番してゐた支那の巡警が、露人とみると意地惡をして、列の後へ廻れといつて突き飛ばした。

そのくせ、其處へ一人のロシア婦人が來ると、巡警は、列の横合からその婦人を割込ませて切符を買はせたから、それを見た露人が、サア納まらない。そこで、巡警と、露人との間に激しい口論が始まつた。すると巡警は、すぐに大聲で、待合室の[illegible]を呼んだ。

事あれかしと待ち構へてゐた支那兵たちは、相手を日本軍人とみて、執固く絡み付いて來たのであつた。

「あの時若し、君が出て來てくれなかつたら、僕は思はず軍刀に手をかけたかも知れない。さうしたら、飛んだ騷ぎになるのだつた。僕は構はないけれど、僕の持つてゐる使命は重大だから——」

中尉は、感慨深さうに言つた。

そして二人は、北滿洲の長い汽車旅行にも格別退屈を感ずることなく、やがて、その夜の十一時頃汽車は昂々溪に着いた。

「やあ、これで失禮します。どうぞ、御機嫌よろしく——」

汽車が昂々溪の驛の構內に、はいつた時、千原中尉は、席を立つて別れを告げた。

「ありがたう——あなたも御壯健で、國家のため、折角御奮鬪を祈ります」

「あゝ、安心して呉れたまへ、いまに、僕たちの活躍する時が來るさうだから、その時、どうか僕の名を思ひ出してください。決して犬死はしないつもりだから、あはは……」

快活な笑ひを殘して、千原中尉は、濶歩して車外に去つた。

伸一は、同中尉のキビキビとした人物を、スツカリ好きになつてゐた。別れに臨んで、言ひ知れぬ淋しさを感じた。

窓から覗いてみると、[illegible]露人とゝもに改札口の電燈の下を行く中尉の凜凜たるうしろ姿が見えてゐた。

「北滿の地に、日本軍人の往來することが、只さへ支那人の神經を尖らせてゐる時、中尉はどんな使命を帶て、單身滿洲里へやつて來たのだらう?」

そんなことを思つて、伸一は中尉のために、その武運長久を祈つた。

そして其次には、滿洲里方面の平穩と、要子の無事とを祈らずに居られなかつた。

汽車はやがて、ハルピンに向け發車した。ハルピン着は、明日の朝の九時であつた。

慶安異聞 艶魔地獄（八十四）

原作 玉水三郎　畫 長谷川小信

證據の取（四）

「謀叛人大久保道〔?〕の嫡男は、當家に於て公人として、隠謀を加へ居つたるに、家の重器を破損致し、青山家の與座として、我家を取潰し、父善内の無念晴らしせんとせしゆゑ、予が成敗致して了つた」

と、青山主膳は、明かにお菊殺しを言ひ切つて、大書道十郎を驚かせた後、

「其の妹八重は奴婢として吉原に居つたる事は、其方も存じて居らう」

「ハッ、心得居ります」

「然るに當の餘類小島三平、夫婦の仲の一子十松の職人が、八重諸共何うやら淺草新鳥越の、唐犬権兵衛方に潜み居るらしい。予は前に奉行として、此一事は酒井因幡守へも申聞けたのであるが、何故か因幡守は彼是を左右に托して、之を召捕らうと致さぬ」

「ハヽア判りました。日外因幡守様が、手前をお呼寄せになりまして、種々小島父子の事に就てお取調しがございましたが、最初から之を召捕るといふ思召しはないやうでございました」

「フム、此上は謀叛人の遺族三人を召捕り、因幡守に赤恥を掻せて呉れん……とは存ずるが、今は予も町奉行でない。其事は如何とも致し方がない。就ては其方一存にて召捕つては呉れまいか。假令召捕つたる後に、誰が何と申さうとも、謀叛人の係類には相違ない。其方落度にはなるまい」

「左様」

「道十郎、三人の者の在所を突止める迄、當座の入費を取らす。又愈々召捕つたとなれば、予は褒美の金を遣はさうではないか」

斯う言つて手文庫から、百兩包み一つを取出して、道十郎の前へ突出した。

道十郎は近來纏まつた金が一向手に入らない際だから、百兩に目が眩んで、

「ハヽア、畏まりました。假令奉行の下知はなくとも、罪ある者を引つ捕へるは、此同心の役目にござります。必ず引つ縛つて御覧に入れませう」

「フム早速の承引忝ない。就ては第一緒に肝腎な事は三人の隠れ家である。八重の大淀が落籍したる唐犬方に居る由は、何人も認める所であるが、三平と十松が判らん」

「さア其事は以前因幡守様も仰しやいましたが、一寸判りませぬ」

「然し唐犬方と目指すより外はあるまい」

「左様、家探しゝても引捕へます」

「唐犬方より外にない。家探し致すに限る」

「一體は唐犬方に探りを入れ、父子の者の隠れ居るだけの、場所があるかないか、是を調べましたら判りまする。手前手附の目明し蕪の太吉と林蔵と申す、腕利き職人がございます。之を忍びに入れまして、博徒仲間を穿鑿致させませう」

「オヽそれが可からう」

百兩の利き目で、すつかり大膳道十郎は、青山主膳の味方となつて了つた。

其日は酒肴の馳走を受けて、道十郎は百兩を懐にニコ〳〵者で八丁堀の家へ歸つて來た。

幸ひ蕪の太吉、林蔵の二人が、他の事件で歸りを待つてゐた。

「大膳の旦那、永い事お待ち申しました」

「例の火附け盗賊の一件ですが、大抵星がついて……」

皆まで言はさぬ道十郎、好い機嫌で、

「左様な事は、身共を待つには及ばんではないか……それより今度の金といふ一大事出來した」

「へーエ、そりや又何ういふ事なんでげす」

「兩人とも一骨折つて呉れ……事成就すれば手柄となつたる上、御褒美が頂ける…ソレ當座の入用、一人十兩宛遣し置くぞ」

二人は吃驚した。

火曜 丁丑 佛滅 平 觜宿　舊九月二十日　十一月七日

●一白の人 穏かに萬事を謀れば次第に良好に向ふべし 丙と辛と癸が吉

●二黒の人 攻勢より守勢の方針が安全なる日移轉赤凶 乙と丙と丁が吉

●三碧の人 巣を出でて猟師に狙はるゝ鳥の如し安住吉 丙と亥と寅が吉

●四緑の人 萬事過渡時代にて危険伸び易し軽動を戒む 丙と庚と亥が吉

●五黄の人 謙譲して人に交れば賞信加はり萬事に得徳 甲と卯と乙が吉

●六白の人 巳を捨てゝ他に盡し後日に報はるゝ事あり 丙と丁と未が吉

●七赤の人 物事澁滞せず奮励の功あり忍耐は殊に肝要 未と申と寅が吉

●八白の人 過大の希望を起さず定業に親めば利徳あり 卯と癸と寅が吉

●九紫の人 猛威を逞ふせざれば進むも功を奏すべき日 庚と壬と寅が吉

大正九年十二月十四日　第三種郵便物認可

新京日日新聞

議會前の政變説は？

明春まで平穩

政局は現狀のまゝ

政局に對する政界の觀測

〔東京六日發國通〕政黨方面では政局將來の動向につき深甚な注意を拂つてゐるが政界の一部で傳へられてゐる議會前の政變説の如きは一種の、爲めにせんとするデマであり多少の

＝全力＝　を明年度豫算編成に注ぎ豫算編成後稍保各相會議を開く方針の樣であるから、たとへ陸軍が如何なる強硬意見を主張しても豫算編成と國策樹立とは全然切り離し別個の問題として取扱ふことになるので、現在一部に唱へられてゐる如き兩者關聯しての政治問題は全然惹起する餘地はない譯である、更に陸軍自ら堅を大にして唱へてゐる非常時局に於て政變まで捲き起し一層時局を混亂せしめる事等で責任を陸軍側自ら負ふ如きことはあるまい、仍つて

＝迂餘＝　曲折はあつても來年度豫算の編成も成り明春の議會休會明け迄は政局は現狀のまゝ平穩に推移するものと見透しをつけてゐる、即ち政變説の根據を爲すものは國內政策樹立のための關係各省會議及豫算編成に際し荒木陸相が強硬意見を代表して陸軍の立派せる所謂國內改造案がうやむやに葬り去られる時は內部より齋藤內閣を倒壞するだらうと言ふにあるが、現在のところでは關係各相會議は七日第一回會議を開いたのみでそのまゝ休會とし政府は

＝結局＝　に於て明年度の豫算は問題の陸軍豫算に相當程度の削減を加へ要求の大部分を承認することにより陸軍も滿足するであらう

氏等が中心となつて農商務關係者と連日打合せ會議を開催してゐるが、リトヴイノフ氏とルーズヴエルト大統領の最初の會見は通商問題を主としタレデツト設定の目算つき次第本格的外交々涉に入り赤化防止債務問題等はその後に於て議論される事となる模樣である、然し乍らリトヴイノフ氏としては本會見に於て先づ承認を確めた後他の問題に入り度き希望を有して居る模樣なるも大統領がこれに應ずるや否やは疑問とされてゐる

大滿洲正義團
各種の催し

大滿洲國正義團奉天本部では去る四日海城縣黃姑屯支部の發會式を擧行、小林常務理事臨席、來會の團員三百名に對し指導講演をなし支部長の答辭あつて盛會に終了、又來る七日は鐵嶺廣玉街清樂茶園に於て酒井主部以下出張し新團員約一千名の宣誓入團式を開催する由、猶是に先立ち六日夜同縣戲園にて同團の講演と映畫の會を催す豫定であると

藏相は苦境に

豫算閣議で政友の觀測

〔東京六日發國通〕政友會首腦部は次の如き觀測を下してゐる

政府は七日の閣議で對內國策樹立に關する關係閣僚會議を開き、十日から豫算閣議を開く模樣だ、對內國策樹立に對する軍部側の意志は可成り

＝強硬＝　なるも所管大臣として軍部緩和の意向を直に實行に移す事には異論あるを免れぬから萬一軍部側が飽迄自説の實現を強行せんとする場合には勢ひ閣內不統一を來し、內閣瓦解の運命を見るやも知れない、又明年度豫算問題も陸海軍々縮要各省新規要求費の按配如何は重要なポイントとなつて居り、政治的解決至難の情勢にあるから齋藤首相、高橋藏相の政治的折衝に多大の期待が懸けられてゐる際であるが

＝一方＝　には財政均衡論も喧しく論ぜられてゐる今日、不足の財源を矢鱈に公債に求めることは出來ないから藏相は極度の苦境に對するものと觀られてゐる

米ソの會商

先づ通商問題から

米ソ國交恢復の使命を帶び渡米中のソ聯外相リトヴイノフ氏は六日ワシントン入の豫定だが最近ワシントンよりの來電によれば、目下ハル長官は國務院經濟調査員フエアーズ

品種分類に

印度側は強硬

會商なほ曲折豫想

〔デリー五日發國通〕日印會商は六日午前十一時第六次本會議を開くに決定、主要問題は附帶條件即ち一年を四期に分ち綿布を四種に分類することと、爲替變動の對策に關し日本側より撤回を要求しこに對する印度の態度を中心とし印棉と綿布の割當問題が討議されも豫定だ、若し印度側があくまで條件全部を撤回せば日本側も數字を讓歩し印度側の數字を承認し急轉直下成立を見るかも知れない、印度側は綿布の品種分類に就ては可成強硬態度なので此點につき尚相當曲折ありと豫想される

なくなるので、双方共此の案ならば異存も無からうと印度顧問のサンフン氏が門野

＝顧問＝　に双方の妥協點は此の邊だらうと語つた由だが、數字其のものはたとへ妥當でも印度が應諾するか、日本が此點迄の讓歩數量附帶條件で解決するか、尚ほ疑問とされてゐる

日印の妥協點

結局どの位で落着くか

〔デリー六日發國通〕四日の會商では數字に全然觸れなかつたので、種々の憶測が行はれて居るが、日本側や印度政府側の意向として傳へられる處を

＝綜合＝　するこ日印の妥協點は三億五千萬平方碼を基準とし結局印棉百二十五萬俵、綿布はその額を超過する時は印棉買付一俵當り綿布二百平方碼の割で最高限度は綿布四億五千萬平方碼に落着くのではないかと觀られる、即ち印度としては棉花を多く賣り度い希望に燃え、日本としては綿布制限輸出額が印度製品より多

赤軍正規兵

又復越境掠奪

不法行爲なほ頻々

〔ハルビン五日發國通〕黑龍江省北端の莫河縣長よりの報告により、十月二十七日同縣城上流二十支里草田子へ武裝赤兵四名又復渡河、滿洲國領土に侵入し騎兵と連絡して馬匹十五頭を掠奪し直に引返したる赤軍正規兵の目にあまる不法行爲が判明したい、頻々たる赤兵の襲來により同地方住民は恟々としてゐる

海軍辭令

〔東京六日發國通〕

第三艦隊參謀長　海軍少將　菊野茂

補軍令部出仕

軍令部出仕　海軍大佐　高須四郞

補第三艦隊參謀長

日向艦長　海軍大佐　町田進一郞

補第一水雷戰隊司令官

醫務局長　軍醫中將　國府田中

補軍令部出仕

軍學醫校長尙　杉新一郞

補醫務局長

菱刈司令官

故武藤元帥の靈を慰さむ

菱刈軍司令官は四日の故武藤元帥の百日祭當日南滿地方へ出張のため參列し得なかつたので、六日午前十時新京神社に詣で故元帥の靈を慰むるところあつた

片山潛

モスクワで死去

〔モスクワ五日發國通〕日本プロレタリヤ運動の創始者の一人たるコミンテルン幹部會員片山潛氏は五日七十四歲の高齡を以つて赤都モスクワに於て逝去した

よりハルビンへ歸する事となり後任にはクズネツオフ氏が任命された

片山潛略歷

〔東京六日發國通〕片山潛氏は岡山に生れ明治十七年渡米して苦學研鑽、十二年の後明治廿九年社會主義者として歸國、同志と共に神田に社會問題の講演會を開いたが、明治卅一年幸德秋水等と共に社會主義研究會を組織し卅四年幸德秋水、阿部礒雄、木下尙江氏等と日本最初の無產黨社會民主黨を創立したが當局の彈壓で一年にして解散した、同年米國に亡命し卅九年再び歸國、四十五年東京市電罷業に際し共產主義者として捕へられ、出獄後又もや米國に渡りトロツキー、ブハーリン等と雜誌「階級鬪爭」を發行、一九二一年全米共產黨委員長に推されて一九二二年ソヴイエートロシアに渡りコミンテルン大會に幹部に推され、以來モスクワに滯在して現在に及んだ

新京其他に

戒煙所を設立

官制、院議で可決

第五十一次國務會議は六日に開かれ民政部提案の戒烟所官制が議決された、その說明書による內容は次の通りである

阿片吸飮の惡習は各種の方策に依りて之が絕滅を圖らざるべからずと雖も、既に阿片の中毒に陷れる者に對しては之に救療を加へ且藥餌に依りて其の惡習を失はしむるを要す、其の害毒の更に甚しき麻藥の

＝中毒＝　に陷れる者亦同じ、是れ戒烟所設立の目的にして政府は更に次年度以降に於て戒煙所の增設を圖り進んであらゆる手段を盡し漸次是等中毒者の跡を絕つに到らしめんとす、政府の腹案に依れば第一年度に於ては約三千人、第二年度に於ては約四千人、第三年度に於ては約七千人、第四年度に於ては約一萬人、第五年度以下に於ては每年一萬六千人を救療せんとす

而して本年度に於ては新京、奉天、吉林、齊齊哈爾及承德に戒煙所を

＝設置＝　し哈爾濱、安東、營口山海關、滿洲里に其の分所を設置せんとす、戒煙所職員は既設の省立病院及檢疫所職員よりも兼務せしむる豫定なり

警務司機構案

明春に具體化

法權撤廢の第一段

滿洲國警察の改善及充實を圖るため民政部警務司の行政機構充實案が審議されてゐるが其內容は大要左の如きもので

一、各科の改廢

二、人事の刷新

三、警務能率の增進

（適材適所主義の實行）

右具體化は明春の豫定であるが、該案は治外法權撤廢の第一階梯を爲すものとして注目されてゐる

警察官練習

所官制

民政部警務司では全國警察官練習所の統制を期し警察官練習所官制の制定をなすに決し目下草案を審議中である

來議會の召集

開院式は廿六日

〔東京六日發國通〕政府は第六十五帝國議會召集に關し大体十日の閣議で協議する筈であるが召集日は多分十二月廿三日となる可く廿四日は日曜であり廿五日は大正天皇祭なので開院式は廿六日となる筈で召集詔書の公布は十二日となら

ソ聯チチハル

領事更迭

既報の如くチチハル駐在ソ聯領事ドレビエルスキー氏は今回對滿積極政策の人事移動に

將に歩を一

移さんとする

日支外交關係の一打診（三）

黃氏の活動が混亂の後に放置されつゝあつた北支の軍事、財政問題を如何に打開するかは別として支那軍不侵入地域に於る支那軍の侵入問題や、依然裏面的に相當深刻に行はれつゝある日貨排斥問題などがどう解決されるか注目に價ひするものがある

黃氏の北上に次ぎ暫く歸國中であつた駐日公使蔣作賓氏も國民政府の轉向方策を携へて七日出帆の秩父丸で歸任しいよ日支外交の局面打開に當ることゝなつた

黃郛氏の北上、蔣公使の歸任、それもこれも支那の對日外交轉向への著しい足跡の一つ一つであり、日支關係が支那から急速なテンポで動きかけて來た事は大なる光明を其前途に期待されるやうな感情を抱かされずにはゐられない

駐日公使蔣作賓氏が倦土重來的な非常な意氣と期待を抱いて歸任の途に就かうとしてゐる事は、最近蔣公使が發したステートメントに於ても窺はれるところである

蔣公使はそのステートメントに於て日支兩國の關係が共存共榮を目標として進まねばならぬ間柄にある事を指摘した後「日支兩國間に問題があれば直接交涉をなすべきが當然である」と明言し「ただ現在の情勢に於ては兩國間の複雜な關係から今すぐには直接交涉の開始は尙今のそしりを免れないが、將來必ずその時期が到來するであらう」と述べ、且つ「新任の廣田外相は余多年の知己であるから相諒解して日支關係を正常なる狀態に立つに到らしめたい」との希望を表示し、廣田外相との折衝に大きな期待を抱いてゐるやうである

翻つて日本に於ても內田外相辭任の直前頃から對支外交は靜觀主義から稍や動きかけたかに見え、杉村陽太郎氏の支那派遣などが決定された。然して廣田外相の出馬に依つて我が對支外交態度は一層能動的となり、支那が自らその剃棘の途を開いて日支外交を正常狀態に還元せしむべく乘り出して來る事を望んだのであつた

俄然、支那も正常狀態へと自ら動きかけて來、駐日公使蔣作賓氏の歸任も今や確實の事となつた

斯くて日支外交關係は新しい折衝への第一歩に入らんとする雰圍氣の裡におかれんとしてゐる。さて最近の情報は蔣公使を迎へんとする日本の一廣田新外相の胸中に在る一對支外交方針を次の如く報じてゐる

第一　支那が日支兩國の根本的利害一致の事實を認識して東洋平和に有害無益な實を以て夷を制する政策を抛棄するやう極力勸說する

第二　滿支兩國の關係に就き支那が滿洲國の健全な發達に依り、支那自身政治的に且つ經濟的に利する事實を認識して既成事實を卒直に承認する寬容さを有するやうに極力勸說する

第三　日本は支那の自己建設に對し純然たる友誼、感情に基き之に援助を與ふるに吝ならざるものであることを說明し、支那が日本との共存共榮策に步みを移すやう勸說する

叙上の如く日支關係は支那側に於ても、亦日本側に於ても局面打開の新情勢に向つて進みつゝあり、殊に蔣公使の歸任即ち東京入りの近き前途には多大の待望が繫められ、直接交涉開始の本舞臺が開幕されるのも餘り遠き將來ではなきそうに感じられ來つたのである（完）

日本飛行機

露領飛行の事實なし

ーソ聯の逆宣傳かー

ソ聯當局は浦鹽日本總領事館を通じ日本に對し「三日午前十時頃スピヤンカ方面に日本飛行機三機（內一臺重爆機）飛來した」とて嚴重抗議すところあつたが右に關し關東軍に於ては斯る事實絕對に無しと明確に否定し、右は全くソ聯の相變らぬ逆宣傳の一つに相違ないと觀測してゐる

の通告に接し直に關東軍並に朝鮮軍に問合せたところ六日午前關東軍よりウラダタチ方面ソ滿國境には匪賊討伐のために數臺の飛行機が出動し居るに過ぎざるが故にウラジオガ面に六機など飛行することは絕對に無かし又朝鮮軍よりも新る方面には絕對に飛行したことは無く特にソ滿國境に於ては二キロ以內の地域を飛行するを得ずとの訓令を發してゐる位であるとの報告あり露

ソ聯一流の宣傳

飛行機問題に關して

ー陸軍省で發表ー

〔東京六日發國通〕陸軍省發表ー我軍の飛行機が露領ウラヂオストツク方面の上空に侵入したとのソヴイエート政府

タス通信

ウラジオ電報

〔モスクワ五日發國通〕ソ聯政府タス通信社は、日本軍飛行機數臺が去る三日ソ滿國境を通過してソ聯領土內を飛行した」とのウラヂオストツクよりの報道を各國へ打電した

國側が同時かの錯覺に基くものである事が判明したので直に外務省を通じてソヴイエート政府に右の旨を通告した

警務指導官赴任

滿洲國警務指導官として渠東總より迎へられた二百餘名の新警察官は新京商業學校內で指導官としての一般講習を終へ、六日一齊に夫々任地へ向け巢立つた

八田副總裁活動

來京、軍側と折衝中

滿鐵改組問題の鍵を握る滿鐵側の立役者たる八田副總裁は六日着京以來席の溫る暇ない程活動を續け、午前十時から正午まで小磯參謀長と懇談を凝らし、午後三時から特務部に於て軍側の中心人物たる沼田中佐と會見し、最後の意見一致を見るべく二時間余に亘り懇談したが、明日も引續き協議を行ふ筈である

農安附近

匪賊討伐隊と對峙

五日夜農安派遣警察官より當地總領事館警察署に達した情報に依れば四日夜より農安縣城南十八支里の溫泉流見附近に集結中であつた占東洋の指揮する騎馬匪五十名は五日午後三時頃農安より同地へ急行した討伐隊と遭遇交戰したが匪賊は頑強に抵抗するので更に農安より警察大隊五十名出動し討伐に向つた、尙ほ六日午前十時卅分着の報告に依れば匪賊は未だ逃走せず目下討伐隊と對峙狀態にあると

在滿鮮人

代表

鮮內を視察

朝鮮總督府では在滿鮮人の文化向上、生活改善に資するため同島に於て卅名、滿洲各地に於て卅名の鮮人代表を選拔し十一月上旬より約一ケ月の豫定で鮮內各重要地を視察せしむる事となり在滿領事館に宛て右人選方を依賴して來た因に旅費其他は總督府が負擔する事になつてゐる

佐鄕屋上告

審棄却

松木も前審通り

〔東京六日發國通〕濱口首相を狙擊した佐鄕屋、松木兩名に係る殺人未遂並に同幇助事件上告審は六日開廷、兩名に對し上告棄却の判決あり、右により前審通り佐鄕屋の死刑松木の懲役八年が確定した

吳俊陞第二

夫人來京

逆產返還運動

故吳俊陞第二夫人吳佐陞氏は去る二日私かに入京愛國旅館に投宿したが其目的は軍政部總長張景惠氏に面接のため差押し居るも事實は逆產處理委員會の手で處理された黑龍江省にある吳俊陞氏の逆產返還要請のためであると傳へられてゐる

岡村副長

赴平

岡村副長は喜多大佐、泉副官花輪書記官帶同、五日朝旅客機で新京發錦州一泊の後六日朝同飛行機で北平に向つた、同日午前中に到着した筈

古田司法部

總務司長

いよく着任

大審院檢事を辭し滿洲國司法部總務司長に就任した古田正武氏は五日大連着來滿したが本朝大連發新京へ向ひ午後七時三十分着列車で着任した

高須判士長

第三艦隊參謀長に榮轉

〔橫須賀六日發國通〕五、一五事件の名判士長たる高須大佐に榮轉の報を齎らし昨夜砲術學校の宿舍を訪れると、判決日を前に控へて一切面會を謝絕し面會者に對しては一々寄付を當直兵に傳達させる家退振りで榮轉を他所に判決準備に心を澄ましてゐる

新線建設の

鐵道從業員へ

特別の優遇方法

〔大連六日發國通〕新線建設事業に從事中の滿鐵社員は、匪賊の脅威の中にあつて不便と鬪ひ乍らも何等不平を漏らさず國民の先驅として默々として建設作業を營んでゐるが、飮料水の不良より來る腸チブス其他の傳染病の罹病者は、現在三十餘名に上つて居り、然かも手當ては各地とも行屆かず其の困苦は並大抵でない

一方滿鐵當局では大連其他沿線と同樣の共濟規定を適用して之等に對しては何等の特例を設じて居なかつたが、去る廿六日以來呼海線其他を視察中であつた建設局山崎臨務課長も實地を視察して、建設從業員の優遇の必要を痛感して歸連したから、近く何等か特例の規則を設けて優遇方法が講ぜらるだらうと期待されて居る

人事往來

▲大瀨萬千百氏（地方委員會副議長）六日午後四時三十分發大連へ、十日か十一日朝歸京の豫定

△芳加女三氏（仁川稅關長）吉敦線の開通を期とし關東洲內並に滿洲各地特に奉天新京、ハルビン、吉長吉敦線の物資出廻の情況視察のため五日來京、關係當局を歷訪し七日午前八時四十分新京發列車でハルビンに向つた

天氣と氣溫

六日の氣溫最高零下六度三最低零下十五度五、七日の天氣南西の風の晴ち曇り

野菜相場

十一月六日

品名	單位	單價
ワサビ	百匁	[illegible]
ウド	同	[illegible]
牛蒡	同	[illegible]
人參	同	[illegible]
白菜	同	[illegible]
蓮根	同	[illegible]
クワイ	同	[illegible]
水菜	同	[illegible]
玉菜	同	[illegible]
タカ菜	同	[illegible]
レヤクシ	同	[illegible]
菜	同	[illegible]
ホーレンソウ	同	[illegible]
サ[illegible]ウ	同	[illegible]
玉葱	同	[illegible]
馬鈴薯	同	[illegible]
里芋	同	[illegible]
山芋	同	[illegible]
サツマ芋	同	[illegible]

品名	單位	單價
大根	同	[illegible]
赤大根	同	[illegible]
フキ	同	[illegible]
シヨウガ	十把	[illegible]
ミヨウガ	一把	[illegible]
松茸內地	百匁	[illegible]
カボチヤ	同	[illegible]
冬瓜	同	[illegible]
キウリ	同	[illegible]
セリ	一把	[illegible]
ミツバ	同	[illegible]
パセリ	同	[illegible]
リンゴ上	百匁	[illegible]
同中	同	[illegible]
ナシ上	同	[illegible]
同中	同	[illegible]
バナナ上	同	[illegible]
葡萄	同	[illegible]
ユズ	同	[illegible]
レモン	同	[illegible]
カキ	同	[illegible]
ネーブル	同	[illegible]
トマト	同	[illegible]
栗	同	[illegible]
蜜柑	同	[illegible]
ザボン	同	[illegible]

地委副議長問題は未だに持越し
堂々市民の前に公にしろと雲ゆき次第に惡化

別項、土地料値上については地方委員會が招集されず、直接關係借地主へ諒解を求め非式に値上を通知し、來る地方委員會においてその經過を報告することになつたが、地方委員會が

『無期』延期されたことについては一部委員間では相當異論がある模樣で、土地料金については大体異議なきも前回の地方委員會で保留された副議長問題の如き既に一ヶ月の長時日を經過するもそのまゝである、尤も得丸氏就任承託の旨は既に一部委員間でさやかく問題となつたその以後において漸く各委員に報告されたが、それも內容はたゞ一片の通知狀に過ぎず、かゝる重大問題を正式に地方委員會に諮つて堂々市民の前に公にされないのは

『何故』か、そこには何らかのカラクリでもあるのではないかと穿つた見方をする向きもあり、何にしろかゝる重大問題を今日に至るも一般市民の前に公にされないことについては委員間でも相當不滿の色が濃厚で來る地方委員會には當然何らかの形式で表面化される形勢である

地代値上げ漸く圓滿解決
地委會を招集せず

例の新京附屬地內、土地料値上については滿鐵では借地主側の意嚮も参酌して原案に修正を加へ一級二級引上を一級に止めることゝして、地方委員會にも諮るはずだつたが

『大勢』は兩者の折衷案ともいふべく修正案に反對なく同意のほかなき事情にあるため各關係借地主に一々諒解を求めたところ何れも異議なきことを確め得るに至り、こゝに更めて地方委員會を開くまでもなく六日正式に各關係者へ値上げを通知した、それによると二級引上は僅かに新發展の老松町一部および中央通西公園入口附近の一部、關係借地主は五名に過ぎず他は全部一級方の引上であり、調整さしても

『大体』無理のないところとされてゐる、なほ實施は十月一日からでこれによつて附屬地內の地代總額は從來三萬二千六百圓だつたのが三萬六千圓になる勘定で滿鐵として凡そ一割一分の增收である

音樂教科書歌詞當選
きのふ發表

さきに文教部では初級小學校中等學校用歌詞を全滿的に募集中であつたが嚴選の結果、六日發表された、それによる歌題及び作者氏名は次の如し

一、好朋友　住所吉林省城南白旗胡同五號李宅韓劍國（初級小學校用一、二年用）
一、建國　住所吉林舒蘭縣公署總務科（高級小學校用一、二年）
一、慈友邦　住所大連市外劉屯泰山街二三二番地徐慶恩（中等學校用）
一、孝悌　住所新京西四道街傳大院吳榮桂（初級小學校用一、二年）
一、勤學　住所大連周水子曾滿學堂劉永雪（初級小學校用三、四年）

（選外佳作）
我們學校　住所大連伏見台靑年會王溪紋（初級小學校用一二年）
滿洲國　住所四平街公學校佛笑肉（中等學校用）
頌滿洲國　住所依蘭縣教育局郝之栞（中等學校用）

阿片密賣
不審の滿人男捕はる

六日午後零時ごろ日本橋通南廣場で風呂敷包を所持した擧動不審の滿人男が徘徊してゐるを新京署員が發見誰何するやその男は逸早く逃走を企てたゝめ逮捕取調べると奉天省西安縣龍川村生れ住所不定張化周（五七）で阿片煙土三百匁を密賣すべく徘徊してゐたものと判明した

これは驚く塵芥の山盛り
新京署の後藤衛生主任初巡視で感あり

首都新京の傳染病發生數は人口率から押して全滿第一位で有名であるが專門醫師の話によるとその原因は氣候風土の關係が最も影響してゐるとゝもに一方には各個人の公衆

『衛生』觀念が欠けてゐるためといはれ、如何に當局が必死的防止に努めたところで各人が進んで防止に努めなければ何年たつても全滿第一位の汚名を頂かねばならないと當局では嘆いてゐる、新京署後藤衛生主任着任直に全市の表街はむろん裏街の隅々を巡視した左の如く語つた

このたび衛生主任を命ぜられたのを幸ひ全市の街々及び裏面を充分に巡視して見ると道路の不潔よりも各家庭の庭々並に家屋の隅々にうづ高く塵芥がつまれてゐるのには全く驚いた、これを見ると市民

『個人』が公衆衛生の觀念にとぼしく、ために傳染病の發生を手傳つてゐる感がある五十步百步であるから各個人が進んで塵芥を所定の塵芥箱に投入してもらひたい當署としても各派出所に命じ塵芥の處置に就き各方に嚴達することになつたが寒に向ふ此際特に各家庭でも一層御注意願ひたい、これから積み重なる塵芥は雪に覆はれ且つ結氷し來春解氷期を控へて惡臭をはなつため傳染病發生を助成する一要素となる塵芥箱が出を桀く時は迷急消防隊衛生係まで通報し取除方法を講じて欲しい

武勳に輝やく凱旋の將士ら着京

北滿に於て赫々たる武勳をたてた第○○軍將兵○○名は五日夜九時十五分新京驛到着のところ大吹雪の爲一時間二十分延着し十一時三十五分各機關代表者の萬才の聲に迎へられ無事到着した、出迎への小磯參謀長、廣瀬○團長は大吹雪の中一同をプラツトホームにて閲兵し廣瀬○團長は慈父の如き言葉を以つて別れの訓辭をあたへ、一同は直ちに滿鐵線に乘りかへ十一時十五分發で元氣一ぱいに南下した、（寫眞は、廣瀬○團長の閲兵）

特產出廻り愈よ本格的に
京鐵管內は上々景氣

昨今特產物出廻りが頓に殺到して來た、新京區管下の發送トン數は最近は一日一萬トンを悠に突破してゐる殊に滿鐵沿線の出廻り

『旺盛』であるのと北滿特產南下が著しく增加したゝめ今後管內（新京）持込トン數一萬トン程度は當分持續されるものと見てゐる、北滿からの南下貨物も一日に百七十車輛（約五千トン）程度の優勢振りで今後いよ〳〵本格的になる模樣である、これがため車輛不足を感じ一日に四百輛程度の抑制車を見てゐる、斯くの如き活況振りを示してゐるお蔭で管內收入も平行して激增をし最近は一日に十五萬圓程度の向上振りを見てゐるが十一月三日の如きは新京管內在貨トン數は二萬二千トンを抱擁してゐた

『抑制』車輛もなく出廻り全部を輸送することが出來わばなほ收入も增加するものであるが現在の狀態では四百車程度の抑制車は止むを得ぬものとされてゐる

競馬賣上げ四萬三千余圓
成績は香しくない

新京賽馬倶樂部主催の秋季第二回競馬大會は既報の如く五日終了したが六日間の勝馬投票總賣揚高は四萬三千七百十三圓で倶樂部の豫想を裏ぎり好成績を見ることが出來なかつた、なほ五日間の成績は左の如くである

三十一日	七〇二〇圓
一日	四一一二圓
二日	四二二七圓
三日	八一三九圓
四日	六七九二圓
五日	一三四二二圓

大新京を語る（三）
國都大新京と都市計畫
國都建設局長　阮振鐸氏

此の計畫區域は東は伊通河を越え北は寬城子を含みます、此の邊は風下であり、河下であり鐵道の便から見て工場地帶としてあります。西は南滿鐵路を遙に越え南は南嶺を含む範圍で住宅地域、商業地域等になつて居ります。それで南滿鐵路の鐵道は計畫地域の中央より稍西を南北に縱斷することになりますが、將來は鐵路高面を底下させまして東西の街路は平面障構で連絡されることになりますから、非常に理想的になるのであります。然し此の計畫區域全部に人口の充つることは遠い將來でありますから五十萬人口收容地域一〇〇平方粁（三千萬坪）を其の中心に設定しまして之を計畫實行區域として居ります

だが人口五十萬も將來のことであるから人口の增加に伴ふ堅實なる建設方針をとり、更に其の中心地帶一帶約二〇平方粁（約六百萬坪）の地域を劃し、今後五ヶ年間の第一期計畫執行區域として居ります。此處には增加人口十萬乃至十二萬位を收容する積りでありますが、前述通りの現在の勢ひでは、とても狹少に過ぎる樣に思ひ、私共の計畫が控目であり從つて確實であつたことが解りまして安心して居る次第であります

此の第一次五ヶ年執行區域は城內及商埠地と隣接して其の西南及南滿鐵路新設南新京驛（將來の中央停車場）一帶の地域であります。此の地域の中央に執政府が來年邊りから着手されることと思ひます。執政府の前は官廳街で本年中に國務院其の他が着工されることになつて居ります。此の執政府の稍東部にあり、且現在の南滿鐵路新京驛から眞直ぐに南下した約一粁の地點が大同廣場でありまして、此處が市政各機關の設立豫定地でありますが只今は建設局、文教部、司法部、國道局の建物が堂々と出來て居ります、尚近く滿洲中央銀行本店が此の廣場に着工されることになつて居ります。此の邊一帶の一部は中央銀行々舍用地、滿洲國官吏の住宅用地として既に拂下が終了して居ります。本年及來年中にどし〳〵建築に着手されます。道路、上下水道、瓦斯、電氣何れも本年十月末迄には完成致しますので全く面目を一新し、名實共に滿洲國第一の都市たるは勿論世界の代表的都市となるのも近きにありと信じます

精神作興詔書煥發記念
行事の打合せ

來る十一月十日は去る大正十二年關東震災後畏くも大正天皇が精神作興詔書を御下賜になつた記念日に相當するので全國的に各團体はそれ〴〵記念行事を計畫中であるが新京でも各敎化團体が七日午後二時から地方事務所長室に集合し精神作興詔書渙發十周年記念行事の打合せをなすはず

永寶鎭屯墾隊の奧村助吉君戰死

（ハルビン五日發國通）四日深更永寶鎭屯墾隊長よりの報告によれば同隊員原籍山形縣東村山郡千布村奧村助吉君は去る十月二十二日午前六時永寶鎭農場東南方地區に於て匪賊討伐中壯烈なる戰死を遂げた

第三回健康週間
十五日から

第三回健康週間は日本赤十字社滿洲支部、滿鐵地方部、滿洲日報社の共同主催で十一月十五日から二十一日までの一週間開催されることゝなつたこの週間中は全市民の健康診斷齒科診斷を行ひ、十九日を戶外デーと決定した

四つ球と五つ球のソロバン研究
軍配はどちらに？

滿鐵鐵道部では去る二十二日鐵嶺、開原、四平街、公主嶺の四驛に對し四ツ球算盤を一個づゝ送附して試用させて使用上の一般的便否、出札事務上に使用する場合における

『特殊』な長所へ又は缺點と認むるものその他研究の上十一月末までに詳細報告する樣傳達した、この四ツ球算盤を早速試用した開原驛から使用上の回答が本社に送附された、それによると次の樣な結果が發見された

一、從來五ツ球を使用して長い經驗から加算の場合急がしい際は六加へる三は十と言ふ錯誤を繰返す懸念がある

二、四ツ球の最良の性能である釣錢算出には相當便利である長所もあるが出札方としては一枚、二枚の乘車券發賣に算盤を用ゆることは稀なことで一枚から十枚までの發賣は暗算で勘定し得るばかりでなく勘定表の作成してある關係上算盤を使用する必要を殆ど認められない、最も必要を感ずるのは一枚半、二枚半、三枚半と言ふ樣な場合で四ツ球で加算することは第一項に述べた如く自信を持てないのであるから四ツ球の最良の性能は、の點で相當減殺される

三、長年五ツ球を使用して熟練してゐる關係上五ツ球の釣錢算出も四ツ球と同程度の能率を擧げ得る自信を持つてゐること

以上三項の理由によつて五ツ球の熟練者が新に四ツ球に移り四ツ球の性能を遺憾なく發揮するまでの所要時間とその間において繰返す錯誤とを

『比較』したならば四ツ球を使用しても大した利益はない樣に考へられ、結局使用者は熟練の程度によつて決する問題ではなからうかと考へられる五ツ球熟練者には五ツ球を使用せしめ、未熟練者に四ツ球を練習使用せしむることが最も效果的といふことになつた

新京金融組合業績頓に上る
佐野理事以下活躍

新京金融組合十月中の營業狀態は左の如くで佐野理事着任以來三ヶ月にしかならざるに着々成績を上げ預り金貸出金並に取扱口數は勿論組合員の出資口數等非常の勢ひにて發展したるため事務多忙にて理事以下事務員は目を廻し居るため關東廳にても之を認め事務員を增加することとなり、當地在住の子弟の事務員を採用することに決定し各新聞に之が募集廣告を發表した

組合員　三六名增加　現在二八八名
出資口數　一五七口增加　現在一、四五七口
預り金
預り高四四、一七九圓
拂戻高三五、五五八圓
現在高七〇、一二六圓
貸出金
新規貸出高二〇一四八九圓
回收高一三六、六五三圓
現在高一二五八、四五九圓

東亞產業協會マーク募集

東亞產業協會では愈よ六日新舍屋に移轉、東亞經濟ブロツク結成の大使命へ邁進することとなつたが、その門出に當り旗幟を闡明するためマークの懸賞募集を爲すこととなつた、其の應募條件は左の如くである

一、東亞產業協會又は協會の使命たる東亞の產業開發及び東亞の經濟聯盟結成を簡明に表現すること
一、原圖の寸法は隨意なるも自由に擴大縮少し得るやう考案すること
一、彩色は三色以內とすること

尚締切りは大同二年十一月三十日とし賞金は一等百圓一名、二等五十圓一名、三等十圓五名で宛名は新京中央通り東亞產業協會とし應募圖案は役員會で嚴重審査する筈である

○○隊兵士出發
皆さん、見送りませう

○○部○○隊○○名は七日午後六時○○○へまた同じく○○名は同日午前四時三十五分○○へ新京を出發することになつた

居付消息

▲鈴木茂樹氏（福岡縣人）三笠町三丁目八番地梅津方へ
▲有川貞敏氏（鹿兒島縣人實業部技正）大連から永樂町二丁目八番地へ
▲松瀬泉氏（福岡縣人按摩）平安町一丁目三番地吉武末太方へ
▲牧初太郎氏（愛知縣人飲食店）大連から三笠町三丁目十五番地へ
▲福田三郎氏（福岡縣人）入船町三丁目七番地へ

轉居

▲川越良雄氏中央通り十四番地仁義好から錦町二丁目十番地滿電社宅二號二十二へ
▲原利雄氏新京金融組合から四平街檢車分區へ
▲平田厚一氏三笠町二丁目十五番地から露月町二丁目二十五番地へ
▲松田秋則氏西公園第二水源地から四平街へ
▲池田敏雄氏三笠町一丁目十六番地ノ四から四平街へ
▲五島順三郎氏（電信會社員）大和通りから梅ヶ枝町二丁目二番地へ
▲白石勇松氏材衣町四丁目一番地から梅ヶ枝町二丁目二番地所和兵へ
▲今村要三氏祝町一丁目二番地から同上

今江高等主任

新京署高等主任今江米太郎氏は曙町官舍から蓬萊町一丁目二號官舍に轉居した
▲嘉村滿雄氏　永樂町三丁目二十番地から佐賀縣へ、とありしは誤りで現在なほ東町居住中

滿鐵辭令

新京列車區乘務荷物方　傭員　淺野喜市
庶務方を命す　准傭　都野忠治
甲種傭員を命す
新京驛々手を命す　開原驛連絡方　甲傭　島崎盛久
新京驛警手を命す　新京列車區列車手　甲傭　駒茂仁
願に依り傭員を免す

滿洲醫大優勝
柔道無段者試合終了

五日新京商業學校で行はれた全滿柔道無段者大會の結果團体優勝は醫大に歸し、晴れの新京體育聯盟の優勝カツプメダルを獲得し、個人試合では左記の人々が優勝した

一等賞　醫大　塚本
二等賞　奉督　岡本
三等賞　醫大　平松
四等賞　范警　澤井

なほ個人優勝者に對しては後日優勝旗が授與されるはず

木下八百子等の二日間藝題

急病のため明石緑郎は休演してゐるがそれに代る踊者なのが揃つてゐるのと木下八百子が映畫女優を率ひて加入してゐるといふのが人氣をよび殊に昨頃映畫ばかりだつた後をうけての劍劇、社會劇、現代劇等を交々上演するので頗る好評を博し大入である初日は時代劇お尋ね者一幕、社會劇桃咲く村一幕、新劇涙の渡り鳥五場等であつたが三日目七日夜の替り藝題は時代劇天龍の渡し三場社會劇嬰兒殺し一場新劇二節道、および萬松蘗のお葉等である

讀者の聲
滿電當局者の回答を求む
パス通勤生

吾々は毎朝滿電バスを利用して城內に通勤する者ですが先般のバス値下げ斷行（滿電では斷行といつてゐます）以來利用者激增し各車共に滿員です、營利を目的とする滿電としては誠に結構な事でせうが、然し之が爲め南廣場や日本橋から乘車する者は十分や十五分は吹き晒しの覺悟が必要となりました、それも十五分待つて乘車出來れば良い方で何台も滿員〳〵で停車せずに行き過ぎます、假令停車しても若車は命懸け喧嘩腰です

値下げ斷行當時は三分間毎に發車とか聞いてゐましたが少し出鱈目の樣です之が爲め吾々は時には遲刻へもせねばなりませんこれからの寒空に何時停車して吳れるか、わからぬバスを待つのも又一苦勞です尤もそれならバスに乘つていらないといふならそれまでですが

滿電はサービスをモツトーとされてゐる由ですが乘客を寒空に吹き晒す樣なモダーンなサービスは止めて車臺の增加とか又、他の何等かの適當な方法に依り利用者に苦痛を與へない樣なサービスをして頂き度いと思ひます

敢て愚筆を振つて滿電當局者の回答を求めます

▲中安町一丁目十一番地山本製袋六氏五女節子さん三十日出生
▲東一條通り六十番地稲田滿雄氏庶子昇さん五日午前五時出生
▲錦町四丁目陸軍官舍三十六號三原タマヨさん三日午後二時死亡
▲吉野町五丁目　番地渡邊もえさん五日午後二時五十分死亡

自然美であれ（下）
——洋裝したる日本婦人に苦言——
文責者　ユタカ・鶴田（寄）

本年の四月まで約七年に近い年月を東京で送つて居た關係で愚生も隨分モダンガール否生きたインチキ青い目の人形娘やマダムを見て來たが滿洲の各都市——奉天、新京ハルビン——等には東京のそれより以上に多い樣な氣がする、就中洋裝マダムの多い事には一寸驚いた位であつた無論此處は日本を離れたる國であるが故に土地の風習等の關係もあらうが其の國の風に習ふさすればこれはまた滿洲服の御婦人は全々皆無であらう外國に居住するが故は其の國の風土習慣にならふさすれば何故にはるばるヨーロッパやアメリカ等の婦人にまねるのであらうか？だからさ云つて愚生は斷じて洋裝反對論者では無い

經濟的や輕便的な見地から云へばむしろ洋裝同意者の一人であるが唯徒に洋裝に非ざれば文明人に非ず等さ云ふ——そんな人も無いだらうがこれは最も積極的な表現語である——見解の元に折角天が即ち自然が與へた美を洋裝に依つて破壞して居る婦人が如何に多き事か！

愚生は或る漫畫を一寸見た事があるが、或る婦人がデパートでマネキンの着てゐた服を買ひそれを着て「嫌だわこの服こんな服なら買ふんじや無かつた」さ云つてマネキンの容姿、即ちスタイルさ彼女のスタイルをコントラストしてある漫畫を見た事がある、それは服其の物のスタイルが惡いのでは無く自己の有する體の格構が惡いのだ、それさ同じくヨーロッパやアメリカ等の女には洋服が似合ふ樣にちやんさ自然に出來て居るし日本婦人には丸マゲに着物が似合ふ樣に先天的に自然がさうさせて居るのである

無論それは或る程度まではまねて見る事が出來るさしても徒に自己の自然美をも知覺せず高價な洋裝を召し得意然さ闊歩して居る婦人を見るがまだしく不自然で技工的でむしろこつけいの感さへする

此處（滿洲）は勿論外國であるがやつぱり東洋である、東洋なれば東洋さしての古來よりの美風特徴がある、況してや吾國に於ては二千年來より日本婦人さして世界に賞讚せられた事は傳統的貴い歷史である

純日本人の美！それは僞造的な不自然な洋裝婦人の美のそれさは違ふ

環境に依り或は其の職業に依り又はそれ以外の種々な事情に依つて洋裝を必要さする婦人の場合はそれが如何に變なタイプの婦人でもむしろ滑稽な程の洋裝であつても自己の生活に必要なる爲の洋裝さすればそれは即ち自然である

徒にモダン的な思想にかられ虛榮の爲の洋裝は須く捨てゝ古來より傳統的な特産的な特種の自然美を有する日本婦人さしての御一省を乞ひ自己の有する日本婦人さしての獨特な自然美を發揚されん事を切望し生意氣な青二才の禿稿を完する次第である

（九・二九・稿）

廣告と圖案の話（二）
鳳三堂主人

凡そ商人さして其の商品の宣傳に、販賣に力を注がない人が在るであらふか

いか程良き商品さ雖も何等の廣告宣傳なくして販賣率の昂上を計ることは餘りにも望めない、廣告宣傳無き優秀商品は、それこそあたら寶の持ち腐れであつて單なる一商人一商品の利害問題でなく引いては國家の損害さも言へよう、現代向かゝる宣傳方法を知らないさ云ふよりは講じない人々がなかなかある、まさか、さ云ふ人もあるであらふが私は否有るさ言ひたい、こふ云ふ類の人々は云ひ合わしたやうに曰く、僕の商品は品質で賣つて居る、曰く、廣告なぞの必要はない、曰く、それでなくてさへドンドン賣れて品物が間に今はぬ——、等々大概これで片付けて超然さして居る者く以て文字通り開いた口が塞らない

今こゝに廣告宣傳の價値を云々するのはあまりに幼稚でもあり又目的でもないから省くここにする

廣告は人間の居る所、眼の屆く處、いかなる處にも其の廣告出所は備へられて居て際限がない、尤も手近かな廣告物は新聞雜誌廣告、引札、ポスターなどである、この內一番大衆的な新聞廣告さ圖案に就いて語らふ

然し新聞廣告の意義、長短所等さ云ふ問題は今更觸るゝ迄もないさ思ふから、先づ新聞廣告の種類を揭げて見よう一言に種類さ云ふても分類の方針に依つて多種あるが此處では

一　構成より見たる分類
二　位置より見たる分類
三　內容より見たる分類

大体以上の三種に分類される二、三、は別に述べるさして本題に手近い一から書いて見よう

一、には（イ）記事廣告（ロ）意匠廣告の二種がある

（イ）の記事廣告は云ふ迄もなく讀み物さして作つた廣告であつて重心を記事面の構成に準じて活字の使用見出しの組み方挿繪の配置等を巧みに考案された即ち文案廣告である

（ロ）の意匠廣告は輪郭を取り版下文字、挿繪其の他の注意惹起の手段に考案を凝らした廣告物であつて、日常新聞紙上に見受けられる廣告の大多數はみなこれに屬してゐる

記事廣告は讀まれることに依つて始めてその效果を現はすが意匠廣告は、單に一見されるこさのみに依つても其の效果はすでに現はれるものであるさ云ふ事が出來るであらう、然し作るれ（イ）（ロ）何れが優劣かを斷することは出來ない、それは各々特長を持つて居るからである

皇軍慰問日記……（九）
新京兵士ホームから

九月二十五日

いよいよ感激の多かつた錦州をあさにするのだ

再び見る車窓からの錦州は認識眼が肥えたので觀察が除程濃まやかになつた、あの新らしい建物なぞは事變後出來たのですねなぞゝおつしやる方も居る、兵站の方がかゆい所に手が屆く程よくお世話をして下さるおばさん方、またお歸りにねさいふ方もある、また別れが惜い

午前七時、汽笛さ共に錦州を[illegible]した、錦州よ何時もなく爽やかに晴れて居る、白塔は美しい、益々膨脹して行く錦州の姿は頼もしい、昔もこゝは遼西の大都市だつたのださうだ、貨物の集散市場さして非常に殷賑を極めて居たさうだ、然し一八五八年の營口の開港、南滿鐵道京奉線の布設によつて交通網の整備さ共に此の地の經濟上の地位は一大變化を來たし錦州の市場は營口の從さなつたさうだ、其の後の總てが沈滯し昔日の盛觀は見る由もなかつた

然し熱河省平定後著しく變化し、內蒙古貿易の盛籠に伴つて發展する事は當然だ、その中心市場はごうしても錦州だ さ言つても、過言ではない、將來の經濟的價値は期して待つべきものがある、こう考へ及ぶさごうしてもふりかへつて錦州萬歲が叫けびたくなる

飛行第十一大隊一中隊の兵隊さんが曹長さんの指揮で朝陽まで行かれるのださうだその十名の兵隊さん一行さ一緒になつていよいよ旅行は面白くなる

皆さんさ打ちつくろいで窓外なぞはそつちのけにして談論を風發させる、列車はもう北大營、泥河子を過ぎて居た

この飛行隊の皆さんに、新京の學校の皆さんの慰問狀をあける、皆さんはよろこんでむさほり讀んで居る、可愛いゝなあさ叫けぶ人もある、偉らいこの子供飛行隊びいきださいふ人も居る、然しその內に、新京公學校の生徒の書いたものがあつた、この拙い日本文の、慰問狀がさても皆様を感激させた、なれない日本語で綴つた紙面には車伴の永遠輻祉樹立のために勇往邁進する將士の勞を謝し今までの自分達が幼な心にきざまれた軍閥よりうけた塗炭の苦しみを陳述し建國以來の甦生の喜びはあふれるばかりあらはされ我々も成人したならば善隣日本人さ共に正義のためにこの東亞の一角を死守するさ結んである

うしむ、これだ！偉い！滿洲の第一國民でかした、さ頓狂な聲で上等兵は叫けんで立ちあがつた、公學校の生徒さん達の手紙は本當に賴しく思わせた、こうあつてこそ東洋永遠の平和は期すことが出來る

おばさんたち!!これからやりませう、これだけの決心を持つて居るんだつたら民國の迷夢をさますことは出來る、さ感受性の多い若い一等兵がいふごうだいあの景色はさいはれて皆、一勝に戰線をなけた遠くに、さあ十里位もあらうが小岳を負つた城廓が見え出した、こゝにも大凌河が流れて居る、そしてなだらかな平原を形成してさても美しい遙かに見えるあの高い山はさ聞くさ最高五二〇〇、老爺嶺ですさ上官の答に應ずるやうな敏速さだ、これもある感受性の鋭さうな一等兵さんだ錢州の驛につく

こゝにも守備隊の兵隊さんが居られる、十一大隊の方が、おーい御苦勞、新京から吾々の慰問にこのおばさん方が來たんだ、さ叫けぶさ皆よつてゝる、おい俺達のここを故郷の人達ばかりでなく在滿の皆さんまでこんなに思つて居て下さるんだぞ、やれやれ、一生懸命やらうぜさ車窓さホームさで手を握り合ふ

お慰問の御手紙などをあけらさてもよろこんで居られる例の上等兵がこの手紙を皆で見ろ皆に愉快だぞ、さポケツトから大事さうにさり出し

圖書祭を前に　三省堂の特賣
目下即賣中

さきに「雜誌週間」の催しにより活氣を呈したる我が出版界は今秋更に一段の飛躍を試むべく全國書籍商組合の重要なる役目が寄り寄り協議中であつたが今回全國同業者を糾合して大々的に「全國圖書祭」を擧行する事さなり業界は勿論一般朝野の視聽を集めてゐる事は逸早く本紙の報道した所であるが

之に先立つて出版業者は各種試みや販賣法其他に腐心してゐる、中にも三省堂、同文館四六書院の三出版書肆が合同して書籍の大特賣を發表したのは特に注目に價する

文字通り汗牛充棟の出版界に於て年々識々一般讀者の眼に觸るゝものは多くは大廣告によるか若しくは出版物であり而かもその總てが良書であるさは云ひ難い、讀者の心を眞に打つべき自信を以て生み出さるゝ書籍は此の中の幾十幾百分の一に當る事であらう特に現時の世相を以てする時にまさに思ひ半に過ぐるものがあらう

良書は良き讀者によつて讀まるゝ事を欲するさ共に、良書の生命に限りなき事も千古不易の眞理である、今度三省堂が特賣する書目總數二百數十點に就ても之を一々檢討するは困難な事であるがその大体を一瞥するも敢て無意義ではあるまい

先づ辭書に「三省堂大英和辭典」さ「新コンサイス英和辭典」がある、前者は百科辭典式の英和で、英語はもさより多少の外國語までも收め、專門家の分擔執筆に係るものだけに譯語の正確さに於て類の無さは萬人の認むる所、その特價が二圓五十錢さ云ふから驚くの外はない、後者は三省堂の看板さして有名なるもの、定價二圓五十錢が一圓八十錢さあるから舊版もの位の廉價である、またロシヤ文學思潮「米川正夫」や紙魚文學「山口剛」藝術學汎論「島村抱月」などは讀みごたへのあるものさ信出來る、其の他宗教、教育、地理、傳記等の中に見るべきものが數點あるが玆に見逃す事の出來ぬのは三省堂常識講座「クロモ、シーリーズ」であらう、これは所謂「岩波文庫」や「改造文庫」さ云つたやうな廉價な叢書であるが科學、藝術、文藝、農藝、軍事、博物等あらゆる日常生活に必要なる部門に分ちて全部で七十七册、各專門家の執筆したる廉價版であり、定價二十錢より三十錢のものが全部十錢にて提供せられてゐるがこれは何れを見るも一册でその道の纏つた知識を得られるやう說かれてゐるから一般讀書子を益する事は尠くないさ信ずる

同文館のものは多く經濟圖書であり、其の他社會、思想、教育、宗教關係のものを五十種許り集めてゐる、四六書院は通叢書「三十八册」の外獨逸プロレタリヤ文學選集「六册」新デカメロン叢書「九册」その他に「鎌倉襲留者の手帖」「吉田謙吉」等の名著の顏も見られる、要するに三省堂は辭典又はかたい教育關係の參考書同文館は經濟もの、四六書院は肩のこらぬ讀み物を以てデビューしてゐる、圖書祭などさ騷ぎ立てずさも秋冷讀書の好季、一般讀者に半價或はそれ以下の特價で相當の書籍が提供されるのは讀書子の喜びでなければならない

因に特賣期間は十一月一日より十一月三十一日までで鮮滿各地方有名書店にて即賣中、期限後は原定價に復る由である、向ほ特價圖書總目錄は各地有名書店又は左記に請求すればよいさの事である

大連市大阪屋號書店內
奉天市大阪屋號書店內
京城府本町一、半田旅館內
三省堂臨時出張所

海の外から

口百二十五萬燭光燈台　英國北デボンのハートランド燈台は一八七四年に建設されて以來暫くの間石油ランプで重任を果して來たが此の程堂々百二十五萬燭光の閃光を十ヵ秒間に六四の割合で放射、萬一の場合には强力なる自働點火のアセチリン裝置を附屬せしめ舊さ打つて變つた新裝凝りを致した

口豆ポンプ出現　火事に依る家庭用輕便消防ポンプが出現、各家庭に獎勵中であるが小さなガソリンモーターを附し使用は簡易、運搬は手頃の爲め好評を博してゐる、而して右は性能並に型體の見地から一名豆ポンプの異名で呼ばれてゐる

口楕圓卓會議々事堂　英國リーズ市に建築中であつた新市廳舍は此の程漸く完成、其の新容を市民の前に發揮してゐるが、現代的樣式を十分取り入れた點でハイカラ廳舍の名をほしいまゝにしてゐる、議員席の配備は圓卓會議の向ふを張つて楕圓卓會議が出來る樣な仕組みさなつてゐる

口ナチスがラヂオで宣傳　獨乙國ではナチスが政權を掌握して以來色々の風變りな政策が斷行されてゐるが近く大衆に向つてナチシズム宣傳の實を擧ける爲めラヂオを各家庭に義務的に備へ付けしむることさなり目下各工場は命を受けて器具の製作に大多忙であるさ

鮮魚小賣相場

品名	相場	品名	相場
活鯛	八五	チヌ鯛	三二
アマ鯛	三六	氷タイ	六一
カツオ	二六	マグロ	一〇
ブリ切	四五	ヒラス	四五
サハラ	三二	スヽキ	二二
サバ	二五	星カレ	三五
タコ	三二	ヒラメ	二六
ボラ	三	コノシロ	二二
キス	二〇	マナカツヲ	九〇
赤貝	九	オコゼ	二二
アコウ	四五	サヨリ	一〇〇
カマス	一六	イカ	四三
イセエビ	九六	東エビ	六五
カニ	一〇	ナマコ	二五
アワビ	六〇	カキ	二八
アサリ	八	カマボコ	二〇
チクワ	一〇	カレイ	一七
水タコ	一九	小イカ	二〇

戀の黒船往來

映畫上映及上演

寺島柾史（作）
布施長春（畫）

第百七十一回

決死の秋波（七）

ピコル少佐……お愛の不實を責めた。

『いけません、あなた、誠意ありません』

『だつて……』

お愛は、習慣性に、容易に秋波をおくつた。

『あなた、うそつきです』

『だつて、あなただつてうそつきですもの』

『どうして？』

『あたし、どんなに陸にあこがれてゐるか、お察しがつきさうなものですのに』

『おう、あなた、函館へそれほど歸りたいですか』

『はい、これからすぐに函館へ歸して、一歩でもいゝ、土を踏ましてくださるなら、そのときこそあたし、あたしの操てを差上げますわ』

『よろしい。さつそく箱館へ向けませう。お愛しやん、ほんとうにわたしを愛してくれますかい』

こんな約束が、典膳と千代の間にも交された。

典膳も、あくる朝、千代をとらへて、前夜の約束破棄を責めた。

『どうして約束を守つてくださらなかつたか』

『でも……』

千代は羞恥らしく口ごもつた。

『あんたには實意がない』

『でも、あなたも、同じことですわ』

『おや、どうして？』

『箱館へつれて行つてやると、あれほどおつしやつてゐながら……』

『ほう、そのことか……よろしい、箱館へつれて行つてやらう。だから、今夜こそ？……』

『……』

『のう、よいだらう。わしを存分に愛しておくれ』

しかし、その夜、典膳がいくら寝臺のうへでまつてをつても、つひに千代はやつてこなかつた。彼はことごとく業をにやした。

――はてさて、おぼこ娘ぢやのう……。

そこで、典膳は意を決して寝臺をおりた。フランネルの寝間着の紐を締直し、上履をはいて、静かに船室をぬけ出した。そして、まもなく千代の寝室をおとづれた。

――おや！

と、みると、千代の寝室の扉の前に人影がうごいてゐた。巨きな牛のやうな存在である。

――おう、ピコルの奴だな。

なんとなく、立ちおくれといつた忌々しさが胸にこみあげた。が、みてゐるとピコル少佐がしきりに扉をたゝくけれども、千代はそれに應諾する風もなく、内部から鍵をかけたまゝ息を殺してゐるらしい。

――ふゝ、天晴れ色男も盛なしか。

物かげで典膳はわらつた。

そのうちに、根負したか、ピコル少佐は、静かに扉をはなれ、空虚な胸を抱いて立去つた。

――こんどはおれの番だ。

典膳は、拔足差足扉の前に進み内部の様子をうかがつた。輕く扉をたゝいた。

『千代どの。千代どの』

内部は、やはり、しいんとしてゐる。

『千代どの。わしぢや。ピコルではないぞ。わしぢや。典膳ぢや』

が、そのとき、不意に背後からフランネルの寝間着の肩先をぐつといつかまれた。

――おや！

と振かへると、それはピコル少佐